

ベラルーシ公開情報取りまとめ

(12月22日～1月4日)

2021年1月5日

在ベラルーシ大使館

【主な出来事】

- ベラルーシ・露両政府、約10億ドルの対ベラルーシ融資契約に署名(12/22)
- 米国、対ベラルーシ追加制裁を決定(12/23)
- ベラルーシ・露、2021年のガス供給価格に関する覚書に署名(12/24)

【ルカシェンコ大統領動静】

●新年挨拶

(12/31 大統領公式ホームページ)

ルカシェンコ大統領の発言要旨は以下の通り。

・2020年は、輝かしく特別な年であり、ベラルーシ国民に「我々は誰なのか」「我々や子供たちはどうなるであろうか」「我々はどこに向かっているのか」「我々は何を欲しているのか」という質問への答えを探させた。

・ベラルーシは、(原発を稼働させて)核大国となり、宇宙に一步踏み出し、乗用車や電気自動車の生産を習得し、バイオテクノロジーの企業を設立し、ミサイル生産を身につけ、ITを発展させた。最も重要なのは、我々が食糧の安全を維持したことである。

・あなた方が偉業を評価していることは嬉しいが、我々は過去に戻ることはない。我々は、ベラルーシの未来を作る。そのためには2020年を過去のものにすることが必要。しかし、過去の教訓を忘れてはならない。過去というページをめくり、ベラルーシ独立の新たな章を書こう。2021年を国民統一の年としよう。

●共和国研究実用センターを視察

(12/31 大統領公式ホームページ)

●ミンスク市執行員会内務局特殊部隊を視察

(12/30 大統領公式ホームページ)

ルカシェンコ大統領の発言要旨は以下の通り。

・資金流入や外国による抗議運動への直接的な参加、過激化要素の準備にもかかわらず、我々の日常に混乱をもたらそうとする試みは上手くいかなかった。国

民の三分の一を失った国においてナチズムの英雄化は不可能である。

・暴動や電撃戦、カラー革命は上手くいかなかった。暖かい外国の部屋に座っている失敗してばかりの戦士(国外退去した抗議勢力)は、ベラルーシ国民のためといって、我が国家に対し新たな奸計を行おうとしている。

・力の組織は、国家安全保障、平和、社会秩序のための最重要事項であり、我々は、同組織の現状と発展の展望に注目している。経済状況は複雑であるが、我々は適時に最新鋭の装備や武器を提供し、人員の主要部分を維持し、軍の威信を高めている。複雑な状況の中で2021年を迎えるが、我々は全ての問題を解決できると確信している。

●ラフモン・タジキスタン大統領と電話会談し、新年の祝福と直近の会談に関する合意を行った。

(12/30 大統領公式ホームページ)

●新年舞踏会に出席

(12/29 大統領公式ホームページ)

●第六回全ベラルーシ国民会議に準備に向けた会議に出席

(12/28 大統領公式ホームページ)

ルカシェンコ大統領の発言要旨は以下の通り。

・第六回全ベラルーシ国民会議は2月上旬に予定されており、既に国・地方組織委員会が作業に入り、12月29日以降、代表者の選出を実施する。国民の全ての層とグループから選出される必要がある。

・同会議においては前回の五カ年計画で達成したこと、未達成であったこと、その理由が協議される。また、2021 年～2025 年の五カ年計画における社会経済発展のプログラムの検討も実施する必要がある。

・本会議の準備にあたって、社会における広い対話が実施される。地方において、企業において、高等教育機関において国家発展の原則的方向について協議される。

●ミンスク市児童感染症病院を視察

(12/25 大統領公式ホームページ)

●慈善イベント「我々の子供」に出席

(12/24 大統領公式ホームページ)

●新型コロナウイルスに対するワクチンの国内開発と生産に関する会議に出席

(12/22 大統領公式ホームページ)

ルカシェンコ大統領の発言要旨は以下の通り。

・ワクチン開発は商業的側面へと移行しており、学術・生産的潜在性を有する国が自国の需要や政治的優先度を考慮している。状況次第では、医薬品物資や医療品、特別機材の輸入が封鎖される可能性がある。

・そこで、ベラルーシには二つの道がある。一つは、自国製ワクチンの開発、もう一つは他国製ワクチンの国内製造である。

・自国製ワクチンの開発について、我々には研究者もあり、知見もあり、学校もあり、実施する必要がある。しかし、これはベラルーシにとって絶対的に新たな課題である。

・他国製ワクチンの国内製造については、財源、期間、量、その他の可能性に関心を有する。ベラルーシ製薬ホールディングとロシア国家研究センターの共同案件の状況はどうであろうか。

・ワクチン接種は、希望する国民全員が受けられるべきであるが、まずは、高齢者や医療従事者、教師、貿易従事者への接種が実施される。

【外交】

●ベラルーシ・露両政府、約 10 億ドルの対ベラルーシ融資契約に署名

(12/22 ベラパン通信)

●米上院、ベラルーシにおける主権、人権、民主主義に関する法律を承認

(12/22 ベラパン通信)

●マケイ外務大臣、カシス・スイス外務大臣と電話会談

(12/22 ベラパン通信)

●ゴロフチェンコ首相、ミシュスチン露首相と電話会談

(12/23 ベラパン通信)

両者は、ロシアで開発された新型コロナウイルスワクチンのベラルーシにおける登録の重要性や貿易経済協力、二国間共同案件の実現について協議。

●米国、対ベラルーシ追加制裁を決定。

(12/23 ベラパン通信)

●在ベラルーシ英国大使館、在ベラルーシ・プレスクラブに対する治安部隊による捜査、及び同クラブメンバーの逮捕に関し、懸念を表明

(12/23 ベラパン通信)

●ベラルーシ・カトリック司祭会議のコンドルセヴィチ議長(注: 同氏は治安部隊と抗議勢力に対して暴力停止を呼びかけており、昨年 8 月 31 日出張先からの帰国時に入国拒否されていた。)、帰国

(12/24 ベラパン通信)

●ベラルーシ・露、2021 年のガス供給価格に関する覚書に署名

(12/24 ベラパン通信)

ベラルーシエネルギー省は「2021 年のガス供給価格は 2020 年とほぼ同等の価格であるが、2011 年に署

名されたガス価格形成のため計算式によって算出される価格より圧倒的に低い価格である。」と発表した。

●トランプ米大統領、ベラルーシにおける主権、人権、民主主義に関する法律を承認
(12/28 ベラパン通信)

●ポンペオ米 국무長官、シュクリャロフ氏(米国籍を保有し、政治コンサルタントを営むベラルーシ人。昨年7月末ゴメリ市にてチハノフスキー氏陣営に所属していた廉で逮捕され10月釈放された。)と会談。
(1/2 ベラパン通信)

●米 国務省民主主義・人権・労働局、ベラルーシ政府に対して暴力と無実の人々の拘束の停止を要請
(1/2 ベラパン通信)

【経済】

●2020 年 11 月、ベラルーシ平均月給、前月対比 1.2%増の 1300.5 ルーブル
(12/24 ベラパン通信)

●ゴロフチェンコ首相、「今年は、石油供給契約に関する緊張はない。複数の露石油大手企業と契約署名を行っている。」と発表。
(12/27 ベラパン通信)

●2020 年 1 月～10 月、ベラルーシ・EU 加盟国との貿易高、前年同期対比 14%減少
(12/28 ベラパン通信)

●ベラルーシ財務省、OPEC 国際開発基金、ベラルーシの保健制度に向けた2千万ドルの融資契約に署名。
(12/29 ベラパン通信)

●ベラルーシ対外債務、年始対比、約 10 億ドル(5.9%)増加の 182 億ドル。
(12/31 ベラパン通信)

●2020 年 1 月～11 月、ベラルーシ貿易高、昨年同期対比 16%減少。
(12/31 ベラパン通信)

【抗議勢力側の動き】

●チハノフスカヤ元候補、ソラナ元 NATO 事務総長・元欧州連合理事会事務総長と会談し、ベラルーシにおける政治危機解決に向けた交渉準備の可能性について協議。
(12/23 ベラパン通信)

●チハノフスカヤ元候補、露「独立新聞」のインタビューに回答。

(12/29 ベラパン通信)

チハノフスカヤ元候補の発言要旨は以下の通り。

・我々は、政権が熱い局面を始めることを許さない。人々は現政権に対して我慢できないであろう。国際的圧力も高まっている。政権は、ただ「力」のみを振り所としているが、経済はその負担に耐えきれないであろう。

・ベラルーシの抗議運動は、嘘と暴力と無法状態への反対のため向けられており、統一された中核や指導者がいないことが特徴的であり、全ての国民の層を取り込んでおり、それが(抗議運動の)力と安定を保証している。

・歴史が示しているように、過激的な手法は多くの犠牲者や悪い結果を伴い悲劇的な終わりを迎える。平和的手法であれば、新たな暴力を産むことなく、独裁者を退陣させることが出来る。

●チハノフスカヤ元候補、新年挨拶の動画を Youtube 上に公開
(1/1 ベラパン通信)

(了)